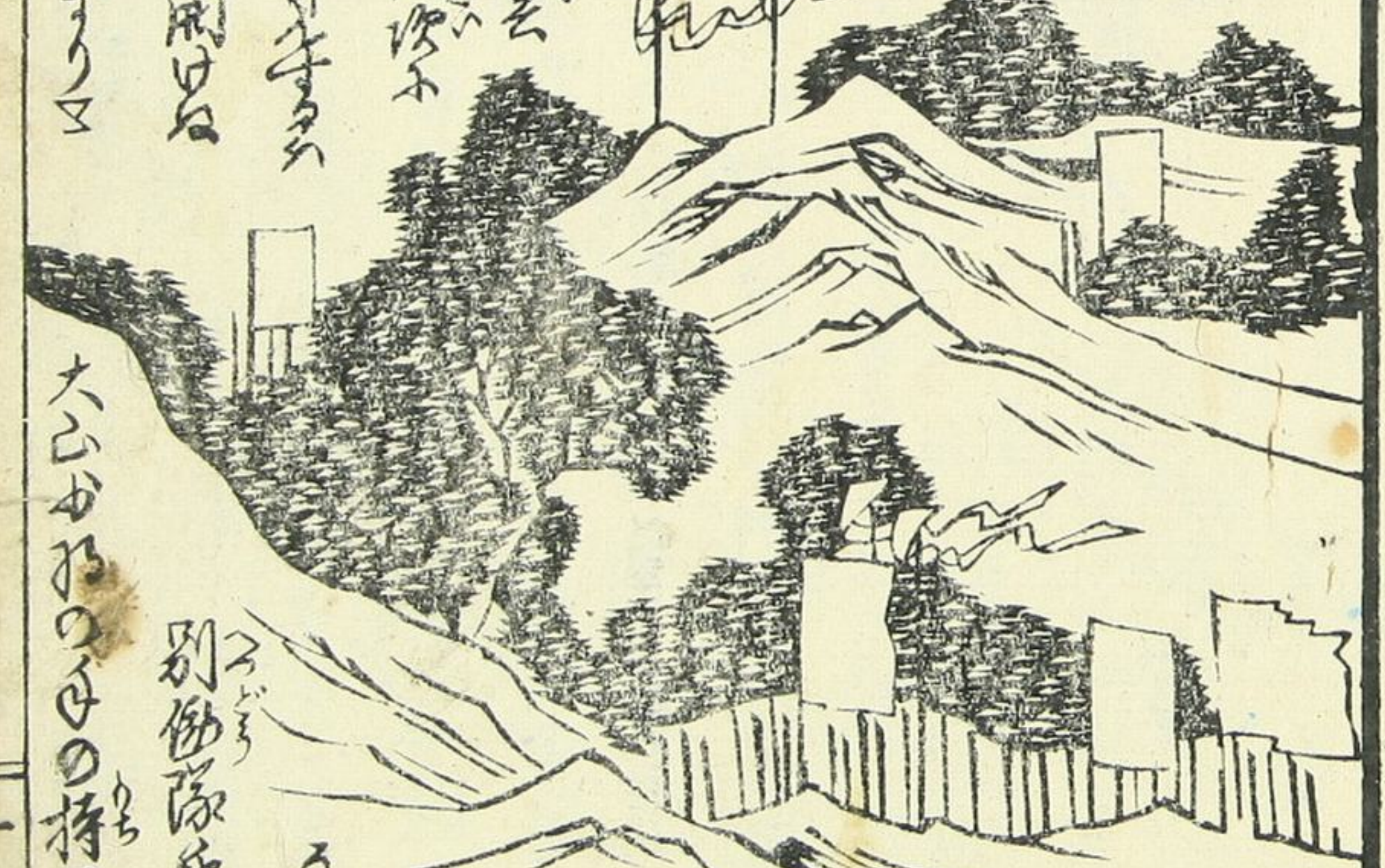




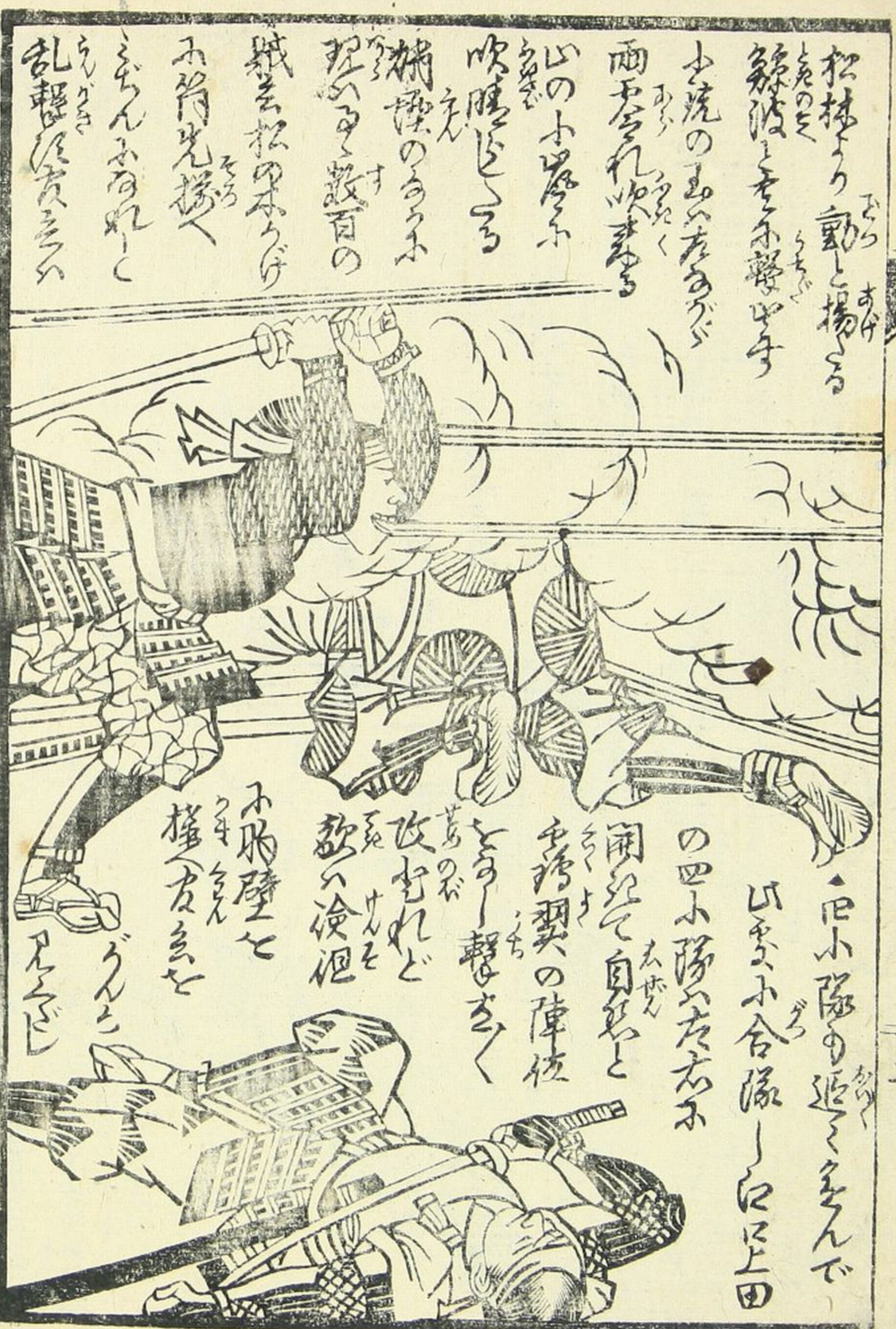
A429
16

日向口の友軍の軍を撃つ
 異なる方面より戦う各隊
 法に巧みくまびきり
 賊を逐ふ其勢の急
 権虎竹林と稱するの形相を
 現する處は淡林と云
 落後と云後ふと云
 日向口の勢は極まる紙
 も各隊の死を撃破れぬ
 返す中の中敵を奮
 武士の陣守と云
 相暴の軍心無四不踏
 上り



友軍の
 支隊を
 支隊と
 と雖も
 日向口の
 別働隊身之旅團の
 日向口の持口日向

48-7872



松林より動と揚る
 舞波とを不聲に
 小流のまゝなるが
 雨を吹れ吹ま
 心の小波ふ
 吹騰じさる
 精進のさるふ
 現のさる數百の
 賊を松の木うけ
 不肖先撥く
 せんふふれし
 乱舞はさるふ

一匹小隊の近くをんで
 いふ小合隊一匹上田
 の四小隊のたふ
 用ひて自然と
 手拍契の陣位
 とす一撃をく
 改むれど
 敵の冷煙
 不射壁と
 権方まを
 せん
 せん

一匹小隊の近くをんで
 いふ小合隊一匹上田
 の四小隊のたふ
 用ひて自然と
 手拍契の陣位
 とす一撃をく
 改むれど
 敵の冷煙
 不射壁と
 権方まを
 せん
 せん

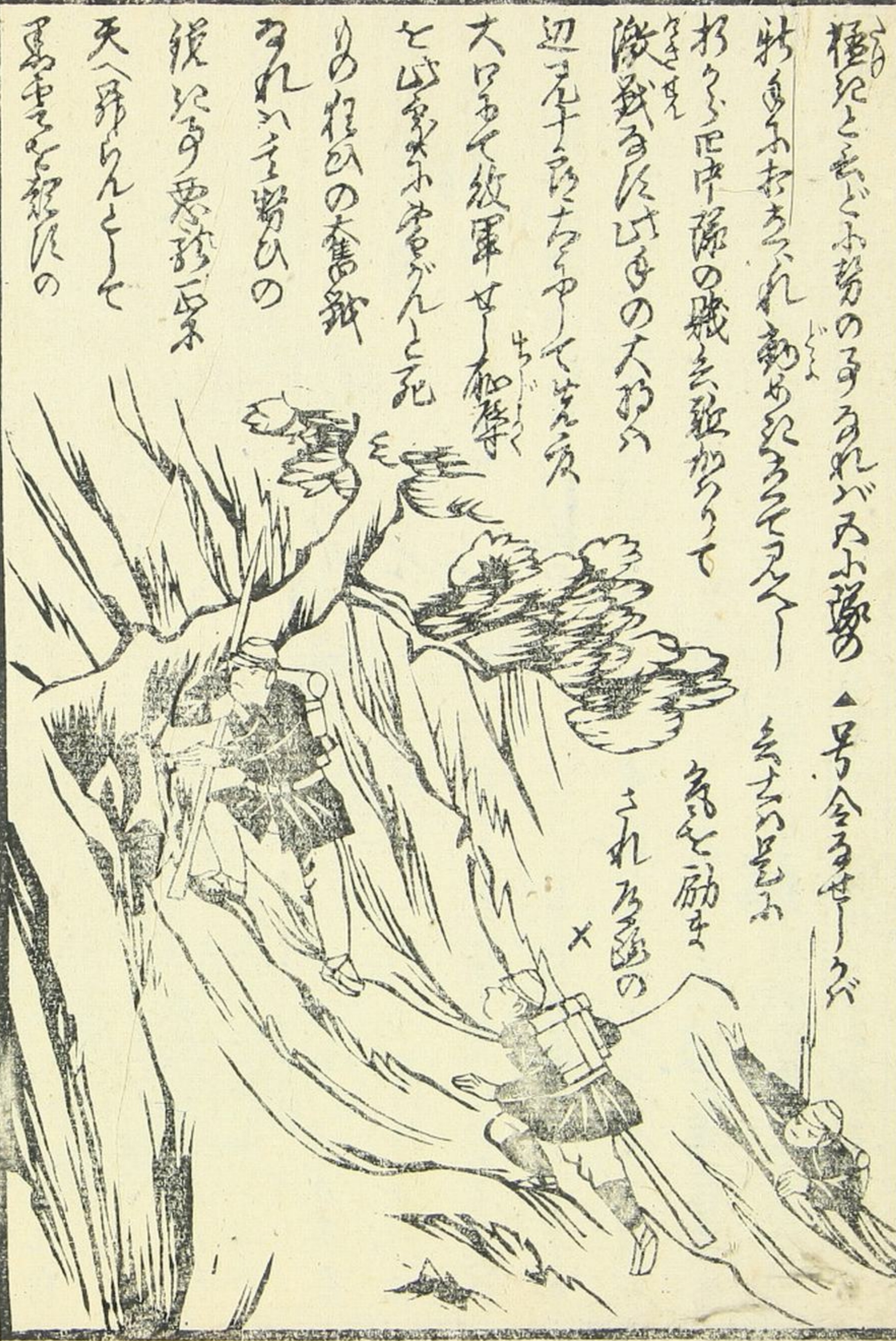


下初ませ
 一小隊のまら
 隊伍とまら
 賊中月欠て死撃
 能破り一小隊と白上田の
 武士の銃を
 悪敵を成くして

下初ませ
 一小隊のまら
 隊伍とまら
 賊中月欠て死撃
 能破り一小隊と白上田の
 武士の銃を
 悪敵を成くして

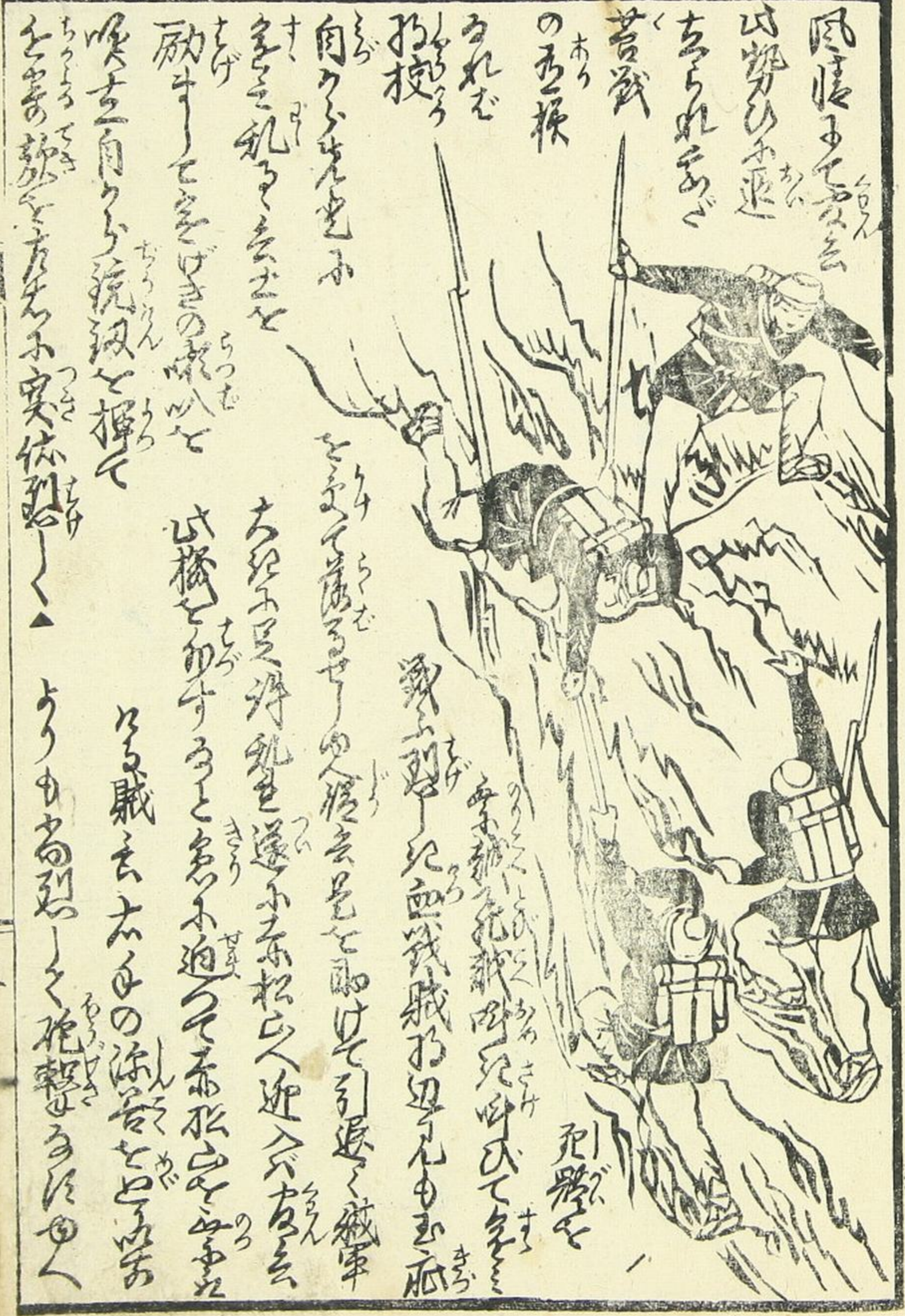
下初ませ
 一小隊のまら
 隊伍とまら
 賊中月欠て死撃
 能破り一小隊と白上田の
 武士の銃を
 悪敵を成くして

第一号
 第二号



極死と云ふ小勢の事なれば又小勢の
 勢多ふおちたれ動あはるるそと
 折るる正中隊の職を致かりて
 激戦るはは子の入る
 迎元十郎ちやてはる
 大はて故軍せし和勢
 とは多ふ小勢と死
 の程の奮戦
 万れは主勢の
 後には要致し
 天へ昇らんとして
 馬重を想ひの

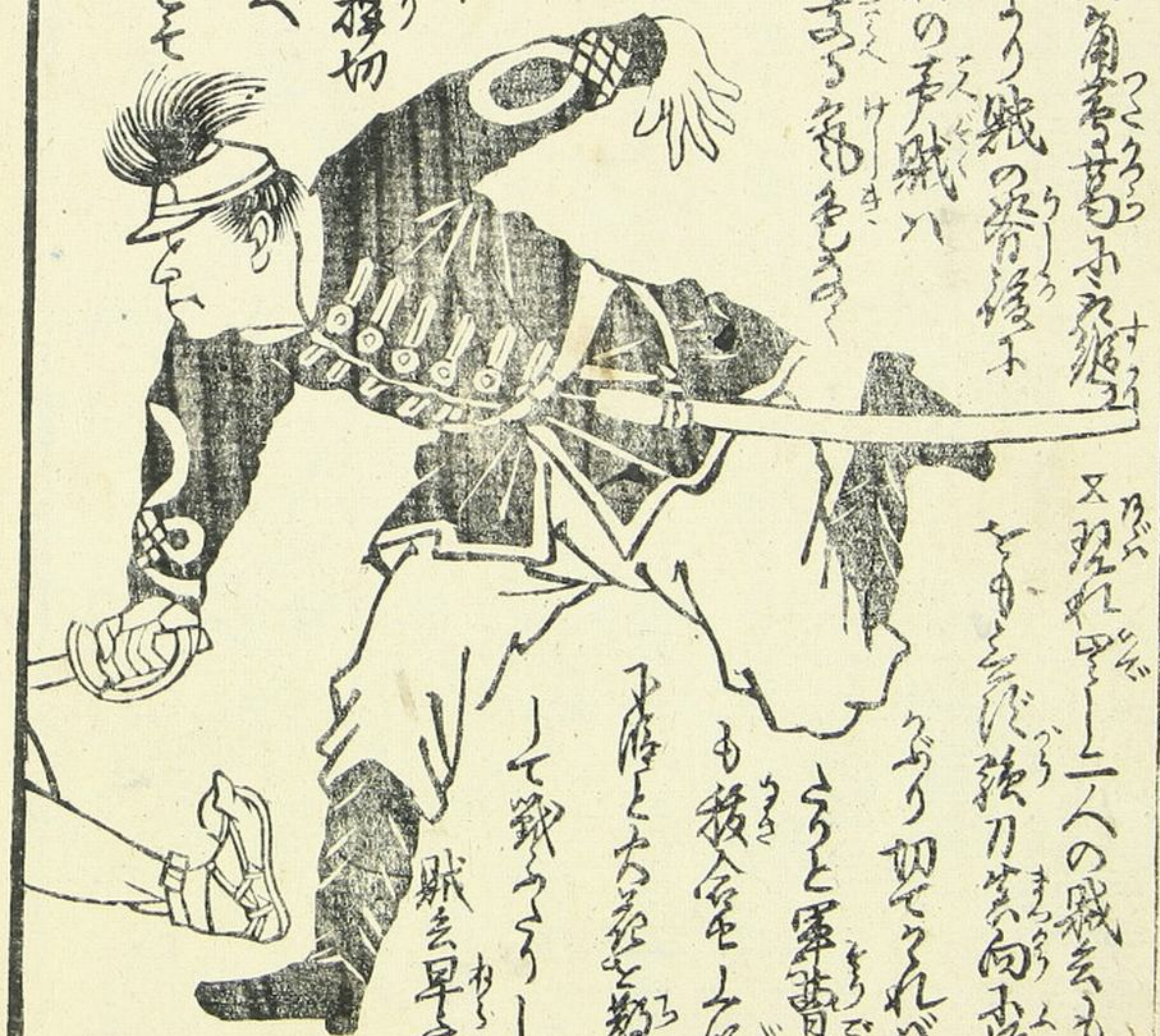
号合るせし
 此の是ふ
 奮を励ま
 此れは子の



風情もておん
 山勢ひも速
 立ちられそ
 昔哉
 のあ探
 られむ
 折杖
 自りく先光小
 多し礼るそと
 励ししてさげさの味
 嘆き自りく流涙と揮て

大はては將死を遂ふ事松之入迎合なる
 け極をゆするそと多ふ迫るそ松之を
 なる戦ふ太子の流涙とては
 けりかあるとて花撃るは
 死を
 死を
 死を

上田隊の二番小隊は角を討ち取らぬ
 て漸く下りてをちりり賊の背後下
 巡りやうと揚る縁の手賊ハ
 味方と必ひしを被てするも色なき
 由乃の体才と田隊ハ
 仕掛しつとと現現
 亦被りて後放の
 一矢を事とありやき
 斬込くと号令は後の揮切
 むりり群集賊の男中へ
 をとる余計のあらさこそ
 後援を頼み入りて



又現れし一人の賊ももの
 をとる後刀共向ふ振り
 あり切てこれ必
 さらし軍曹は
 も被るを上げ
 下と方を知ら
 して戦うる一か
 賊は早き

矢は二十二人と雲を貫き賊を始めては并ぶの
 ようにぬるののてさし賊は時々のそを後始
 ちとを初つら唐笠は
 甲十人後速く
 おてかりし
 おしよお松の
 此は越後高田の
 士族うそと上田隊
 二番小隊の軍曹は
 任せて別連を
 した賊と付たより賊の隊を
 と付るんと感るらんそを後巡る



此は越後高田の
 士族うそと上田隊
 二番小隊の軍曹は
 任せて別連を
 した賊と付たより賊の隊を
 と付るんと感るらんそを後巡る



多とえ逃せしよ
尾撃ありしついで
押へ三豆を
歩みぬふ
みもや

一人の旗
んじまんがまじしと
かんそつり先途
さしおれしついで
はと旗をばし
お名ぎお切高取らせし
中

出人の大也
焼とま
なり



大者おま
賊をゆる人迎んとす
速りふりついで
さきへついで
ほぞとにふるピストル
より早しは向はせし
さし向むのつれぬ奴
二人のぞくとまき
がりりりと振すを大ら

×こつら世二人の
そつ別敵もむが
んそ見ついで
お力おまど
らばし
はたまふ
らまて人
そつ引立て
病のしは
て引あげ
つりたま
此大山の
てい

